

道 徳 学 習 指 導 案

4年1組 32名 指導者 小 峯 三 朗

本授業は、以下のような視点で授業を行うものである。

- 見つめる活動において、小運動会など事前の活動の写真を見て、自分の体験と関連付けながら自己の生き方について考えることで、よりよく生きたいという願いをもつことができたか。
- 問い直す活動において、各教科や日常生活での体験と結び付けるような活用ボードを基に、自分の体験と関連付けながら考えることで、自分との関わりで道徳的価値を捉えることができたか。

1 主 題 名 友達のよさを知る（資料名「ぼくらだってオーケストラ」〈読み物－東京書籍〉）

2 ね ら い

友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。（2－③ 友情・信頼、助け合い）

3 主 題 について

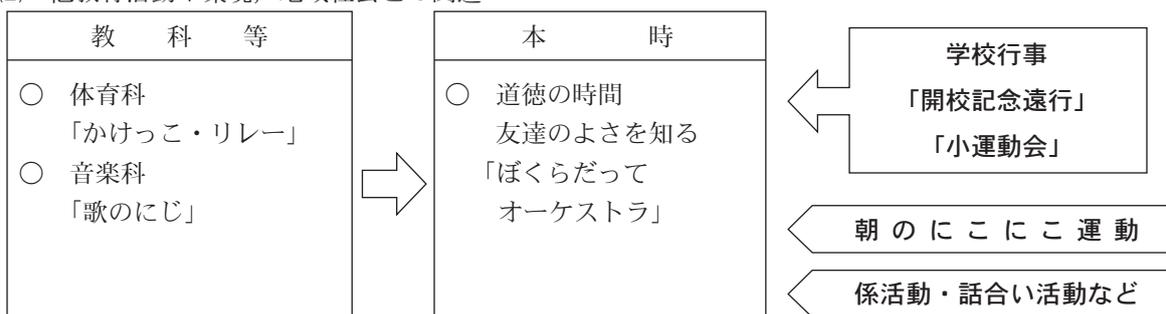
(1) 主題の価値

本主題は、中学年の内容項目2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」で、健康的な仲間集団を積極的に育成するために、友達関係の在り方について主体的な内面の自覚を図ることをねらいとする内容項目である。これは、低学年の「友達と仲良くし、助け合う」から発展し、高学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う」に発展するものである。本主題では、特に、助け合いの言動をとることで、気持ちが通じ合い、明るく健全な友達関係に深まっていくことを理解できるようにする。さらに、信頼し合い、励まし合い、忠告し合いながら、互いに切磋琢磨して生きていこうとする心情をはぐくむことをねらいとしている。

この期の子どもたちは、物を貸したり、友達の不得意なことを教えたりして、交遊関係を広め、多くの友達をもつようになる。しかし、助け合いがお節介になったり、グループ間で排他的行動にでたり、友達の行動を平気で非難したりするのもこの時期である。これは、自分の利害が先行し、相手の気持ちや立場を考え、共に向上しようとする意識が高まっていないからだと考えられる。

そこで、他者との困難に接したときに生ずる心情の変化について、その背景となる考え方や感じ方などを推察したり、他者の気持ちや立場に立って考えたりするなど多面的に追求する活動を設定する。そうすることで、助け合う気持ちで接していくことのよさやすばらしさを理解させるとともに、誰に対しても助け合う言動で接していこうとする心情や態度について子どもたちと共に考えていきたい。

(2) 他教育活動や環境、地域社会との関連



(3) 児童の実態と資料について

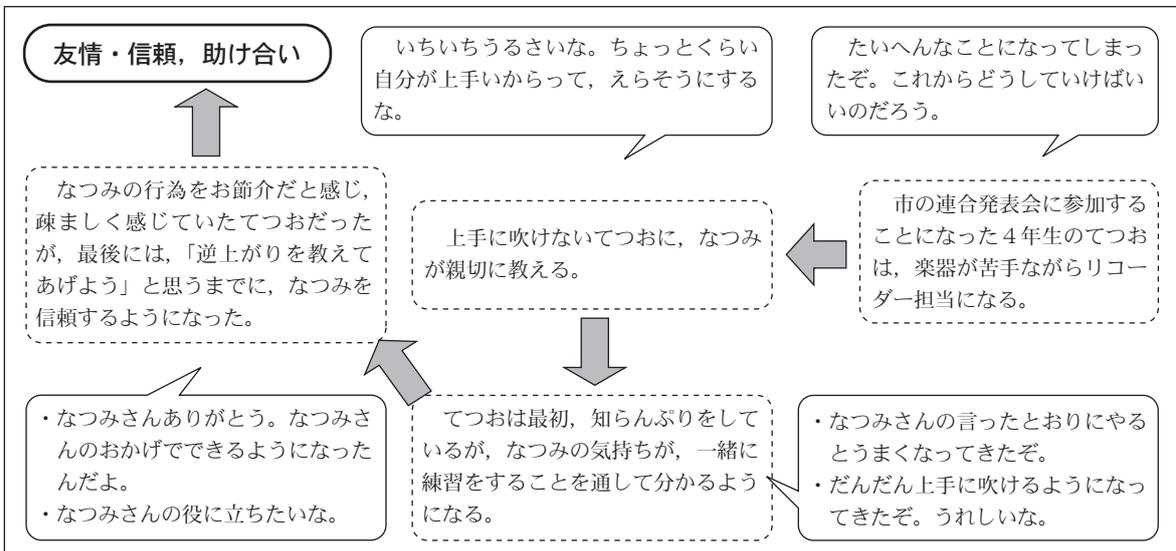
平成23年4月7日 調査人数32名

<p>① 友達と信頼し合ったり、助け合ったりしたこと。</p>	<p>【子どもの望ましい体験】</p>
<p>ある…24名 ない…2名 思い出せない… 6名</p> <p>〈体験〉・みんなで長縄跳びができたこと。 ・仲良く遊べたとき。</p> <p>〈そのときの気持ち〉</p> <p>・うれしい。 ・気持ちがいい。 ・また、できればいいな。</p>	
<p>② 友達と信頼し合ったり、助け合ったりできなかったこと。</p>	<p>【心の弱さ】</p>
<p>ある…21名 ない…7名 思い出せない… 4名</p> <p>〈理由〉</p> <p>・遊びたかった。 ・面倒くさい。 ・他にやりたいことがあった。</p>	

③ 友達と信頼し合ったり、助け合ったりしたいと思うか。 【子どもの願い】
思う…32名 思わない…0名
④ 友達と信頼し合ったり助け合ったりするとは、どのようなことだと思うか。 【感じ方や考え方】
<ul style="list-style-type: none"> ・友達に助けてもらったら安心するし、助けてあげたらいい気持ちになること。 ・自分も相手もすっきりして気持ちがよくなること。 ・相手のことを考えた気持ちを大切にすること。 ・みんなががんばって、最後に「よかったね」と思えること。 ・優しくする気持ちになること。

②・③の結果から、「友達と信頼し合ったり、助け合ったりしたい」という願いはあっても、ほとんどの子どもが、いつもできていないということが分かる。これは、友達を信頼し、助け合っていくことは大切であるということを知っていても、そのよさやすばらしさを十分実感していないためだと考えられる。また、④の結果から、「相手のことを考える」「みんなが気持ちよくなること」と自分のことを含めた周りの人のことを考えている子どもがいることも分かる。そこで、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで捉えさせる手立てを工夫し、友達と信頼し合ったり、助け合ったりすることのよさやすばらしさを実感を伴って理解できるようにしたい。

【資料分析】



4 展開に当たって

見つめる活動において、遠行や小運動会などの写真を提示することで、友達と信頼し合ったり、助け合ったりした体験を想起することができるようにする。また、自分の体験とねらいとする道徳的価値を関連付けて考えさせることで、「友達と助け合って活動することは、どのようなことだろう」という問題意識を高めることができるようにする。

問い直す活動では、追求の視点が明らかになった子どもに、てつおのなつみに対する心情の変容について、その背景となる考え方や感じ方などを自分の体験と関連付けて考えることができるようにする。そのために、各教科や日常生活での体験と結び付けるような活用ボードを基に、自分との関わりで道徳的価値を捉えることができるようにする。また、てつおのことを考えたなつみの言動について、自分との関わりで考えさせるために、二人の役を役割演技し、話し合うことができるようにする。更に、自分のことのように喜ぶなつみを見たてつおの気持ちを追求し、友達の成長を喜ぶなつみと、その気持ちに対するてつおの心情の双方向性に気付かせ、ねらいとする道徳的価値のよさやすばらしさを実感を伴って理解できるようにする。

振り返る活動では、友達と助け合って活動することができた体験や友達と互いに競い合い、高め合うことができた体験について書くように助言する。その際、活用ボード等を基に自己の体験を想起することができるようにする。

あたためる活動では、助け合って活動している様子や友達と互いに競い合い、高め合う様子を視聴覚機器を使用し、視覚的に心に響くようにすることで、実践意欲へと結び付けることができるようにする。

時	主な学習活動と教師の手立て・評価	
(分) ↑ 7 ↓	1 友達と助け合うことができた体験を話し合う。 ・みんなで協力して、長縄跳びで新記録を作ることができたよ。 ・遠行きつかったけど、励まし合えたよね。 友達と助け合って活動することは、どのようなことだろう。	④ 日常生活において、友達と協力し助け合うことができた体験を想起できる活用ボード 活用ボードを使い、友達と助け合うことができた体験を想起させることで、助け合って活動することのよさやすばらしさを追求しようとする問題意識を高めることができるようにする。 
↑ 25 ↓	【問い直す活動】 2 資料「ぼくらだってオーケストラ」を読み、てつおの気持ちを話し合う。 (1) 「右手の小指、あなが半分あいている」となつみに言われたてつおは、どのような気持ちになっただろう。 ・うるさいなあ。 ・ほっといてくれ。 ・自分ができるからっていばらないでほしい。 (2) 少しもいやがらず、熱心に教えてくれるなつみと練習するてつおは、どのような気持ちだっただろう。 ・上手にできるようになりたい。 ・教えてもらったとおりだ。 ・なつみさんってありがたいな。 (3) なつみが、自分のことのように喜んでくれているのを見たてつおは、どのような気持ちだろう。 ア やったあ。ぼくもやればできるんだ。 イ ありがとう。なつみさん。今度は、ぼくが教えてあげるね。 ウ みんなが助け合って、みんなが高め合うことができる仲間になりたいな。	④ ワードカード、場面絵、活用ボード なぜ、てつおはなつみのアドバイスを素直に受け入れることができないのか、自分との関わりとして促えることができるようにするために、活用ボードを基に考えさせる。  てつおのことを考えたなつみの言動について、自分との関わりで考えさせるために、二人の役を役割演技し、話し合うことができるようにする。 ※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。 ア 自分の気持ちを中心にした考え方 イ 他人への思いを中心にした考え方 ウ 集団・社会への思いを中心にした考え方 中心発問について「道徳ノート」に書いたことをもとに、全体で類型化し、感じ方を広げることができるようにする。  友達と助け合って活動することができた体験や友達と互いに競い合い、高め合うことができた体験などを書くように助言する。その際、活用ボード等を基に自己の体験を想起することができるようにする。 
↑ 8 ↓	【振り返る活動】 3 友達と助け合って活動することができた体験について発表する。 ・競争相手の友達と競い合った結果、二人とも二重跳びが上手くなり、高め合うことができた。	自己の望ましい生き方を感じ得るように、友達と助け合って活動している様子を視聴覚機器を使用して紹介し、よりよい生き方をしようとする意欲をあたためることができるようにする。 
↑ 5 ↓	【あたためる活動】 4 友達と助け合って活動している様子の映像を視聴する。	自己の望ましい生き方を感じ得るように、友達と助け合って活動している様子を視聴覚機器を使用して紹介し、よりよい生き方をしようとする意欲をあたためることができるようにする。